

IV 資料編

農地・農業用施設被災への対応と課題

- 1 初動時の動き
- 2 7. 1 3 水害との被害の比較
- 3 平成23年7月新潟・福島豪雨災害（三条地域）復旧復興通信
- 4 災害対応時の装備

1.

初動時の動き

【農村振興担当】

	期日	行 動 内 容	行動者・対象者等	三条市役所の対応	その他
災害発生前	H23. 7. 28				(断続的に降り始める)
災害発生中	H23. 7. 29	被害調査(下田方面、加茂・田上方面、大島下郷・須頃郷方面、中之島方面)	農村計画課2名、 農村整備課11名	災害対策本部設置 (13:25) 三条市全域に避難 勧告(18:10)	
		右岸機場 状況確認(30日0:30まで)	農村計画課1名		(降雨 一旦小康 状態に)
		夜間宿泊(庁舎内で状況確認)	副部長、農村計画 課1名		
	H23. 7. 30	右岸排水機場の土のう積み(6:00~)	農村計画課2名、 農村整備課6名、 刈谷田土改、 消防団	下田地域に避難指 示(5:30)	
		右岸機場 状況確認(18:00まで)	農村計画課1名		(降雨 午前中で おさまる)
		下田地域、農環北五百川、中之島方面 被害状況調査	農村整備課		
		夜間宿泊(庁舎内で状況確認)	農村計画課1名、 農村整備課1名		
災害発生直 後	H23. 7. 31	平野防災大臣視察対応、米田農地部長 視察	部長、農村整備課 1名	復旧対策本部に移 行(10:25)	
	H23. 8. 1	牛野尾被害状況調査	農村整備課4名		
	H23. 8. 2	五十嵐川・守門水系農業用施設被害状 況調査	農村整備課3名		
		鹿熊川・加茂川水系農業用施設被害状 況調査	副部長、農村整備 課2名		
	H23. 8. 3	県選出国會議員現地視察	部長、副部長		
				県に被害確認調査 応援要請	
	H23. 8. 4	農地部現地視察	部長、副部長		
H23. 8. 5	農水省視察				
被害状況把 握時	H23. 8. 6	被害確認調査開始	各振興局応援		三条市災害対策本 部：農村整備課1 名
	H23. 8. 7	民主党岡田幹事長視察対応	部長、副部長、農 村整備課2名		
	H23. 8. 8	下田地区現地調査	部長、副部長		
	H23. 8. 11	農地部長、地域農政推進課長現地視察	部長、副部長、農 村計画課1名		
	H23. 8. 15	被害確認調査終了			第1回下田地区営 農対策会議
	H23. 8. 17	現地調査	部長、副部長		
	H23. 8. 19				激甚災害閣議決定
査定準備時	H23. 8. 23	被害確定報告		被害確定報告	
	H23. 8. 25	三条市より県に査定設計書作成応援要 請			三条市災害対策本 部：農村整備課1 名
	H23. 8. 30	災害査定設計書作成応援開始	三条・新潟・巻・ 新津振興局		第2回下田地区営 農対策会議
	H23. 9. 6	布施谷・吉津川排水に関する打ち合わせ	部長、副部長		
	H23. 9. 10	災害査定設計書支援(下田庁舎)	部長、副部長		
	H23. 9. 15	農地部長視察(下田庁舎)	副部長		
H23. 9. 16	査定官事前視察(下田庁舎)	副部長			

	期日	行 動 内 容	行動者・対象者等	三条市役所の対応	その他	
査定準備時	H23. 9. 17	三条市との打ち合わせ	部長、副部長			
災害査定時 及び 春の作付け 対応	H23. 10. 3	第11次災害査定開始(10/3～12/16)				
	H23. 10. 5	関係振興副部長会議			第3回下田地区営 農対策会議	
	H23. 10. 6					
	H23. 10. 7	地域整備部との連絡調整会議		副部長	災害復旧に係る農 区長会議(6～7日)	
		災害復旧に係る農区長会議 (JA南蒲下 田支店)				
	H23. 10. 24			災害復旧工事発注 開始 (小規模災)		
	H23. 10. 25	北海道土地改良連合会打ち合わせ	部長、副部長	北海道土地改良連 合会支援開始		
	H23. 10. 31			山形県測量設計協 会支援開始		
	H23. 11. 1	第4回下田地区営農対策会議	副部長		第4回下田地区営 農対策会議	
	H23. 11. 2	査定官事前視察 (北五百川)	副部長			
	H23. 11. 4	下田地区打ち合わせ (北五百川)	部長			
	H23. 11. 10	三条市農地災害支援会議	部長、副部長			
	H23. 11. 24			災害復旧工事発注 開始		
	H23. 12. 8	豪雨災害で全く作付けできない農家や 代替農地を希望する農家への調査	副部長、農村計画 課2名、農村整備 課1名			
H23. 12. 12			豪雨災害復旧に係 る農区長・転作推 進員会議			
H23. 12. 16	第20次災害査定終了(10/3～12/16)					
春の作付け 対応 及び 災害復旧発 注設計書支 援	H23. 12. 19	新聞・テレビ等で報道された者への フォローアップ、及び農家組合長・抽 出農家聞き取り調査	副部長、農村計画 課2名、農村整備 課1名		第5回下田地区営 農対策会議	
	H24. 1. 11	三条市との災害復旧に関する業務打ち 合わせ	部長、副部長			
		布施谷川・貝喰川排水問題打ち合わせ	部長			
	H24. 1. 13		副部長、農村整備 課1名		第6回下田地区営 農対策会議	
		南五百川集落説明会	副部長			
	H24. 1. 31	三条市災害発注用設計書支援開始 (1/31～)	農村計画課・農村 整備課			
	H24. 2. 16	三条市災害発注用設計書支援終了 (～2/16)	農村計画課・農村 整備課			
	H24. 2. 16	新潟福島豪雨災害の復旧に関する打ち 合わせ会議 (県庁議会庁舎)	農地建設課、5 振 興局			
H24. 2. 17	坂田県議来庁 (下田地域の長野排水 路)	部長、農村整備課 1名				
H24. 2. 24				第7回下田地区営 農対策会議		

2.

7. 13水害との被害の比較

平成16年7.13水害と平成23年7月新潟・福島豪雨との農業・農業用施設被害額の比較

○県全体

(単位:件、千円)

施設区分	H16.7.13水害						H23.7新潟・福島豪雨					
	農地		農業用施設		合計		農地		農業用施設		合計	
	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額
新潟県(全体)	1,989	4,168,000	3,216	9,761,000	5,205	13,929,000	7,824	15,020,000	7,400	19,536,000	15,224	34,556,000

○三条管内

(単位:件、千円)

施設区分	H16.7.13水害						H23.7新潟・福島豪雨					
	農地		農業用施設		合計		農地		農業用施設		合計	
	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額
三条市(全体)	825	1,017,000	750	1,548,000	1,575	2,565,000	1,614	5,987,000	1,570	5,303,000	3,184	11,290,000
旧三条市	8	246,000	13	35,000	21	281,000						
旧下田村	802	739,000	698	1,253,000	1,500	1,992,000						
旧栄町	15	32,000	39	260,000	54	292,000						
加茂市	8	48,000	6	6,000	14	54,000	16	73,000	11	71,000	27	144,000
田上町			2	6,000	2	6,000	1	1,000	5	48,000	6	49,000
長岡市(全体)	590	1,311,000	1,334	4,208	1,924	1,315,208	146	1,208,000	354	2,862,000	500	4,070,000
見附市(全体)	85	949,000	127	645,000	212	1,594,000	100	300,000	399	748,000	499	1,048,000
計	1,508	3,325,000	2,219	2,209,208	3,727	5,534,208	1,877	7,569,000	2,339	9,032,000	4,216	16,601,000

3.

平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨災害

(三条地域)復旧復興通信

平成 23 年 10 月 7 日
三条農業振興部

今月（10月）の主な取組

- 災害査定（3日～11月11日まで）
 - ・ 査定情報をメール配信していますので、ご覧ください。
- 第3回下田地区営農対策会議（5日）
 - ・ 三条市、JA、NOSAI、土地改良区と将来の営農に不安を持っている集落を対象として、説明に入る手法等について意見交換、打合せを行うもの。
- 災害復旧に係る農区長会議（6, 7日）
 - ・ 農地被害に対する市単事業の説明会。（県も出席）
- 査定設計書作成の現地調査・設計積算業務（当分の間）
 - ・ 査定を受けながらの作業となり、更にご苦勞をおかけします。

具体的な打合せ等

- ✓ 4副部長会議（7日）
 - ・ 初回の査定を踏まえ、今後の対応や現状等について意見交換。
- ✓ 地域整備部との連絡調整会議（5日）
 - ・ 河川脇農地の査定設計書作成にあたり、河川の復旧計画資料の提供を依頼。
 - ・ 五十嵐川、守門川、鹿熊川、大平川沿いの被災農地、取水施設の箇所図を提供。

課題等

- 査定設計書作成作業
 - ・ コンサルに作業依頼している大規模被災箇所、構造計算を要する施設の作業が遅れている。
 - ・ 他県等からの応援は見込めない。
 - ・ 当該箇所をリストアップし、個別に対応を検討する。
- 査定前着工
 - ・ 手間がないこと、査定の手配から十分に対応できていない。9月30日に、市に再度申し入れ。
 - ・ 11日に市が、市建設業協会と査定前着工について打合せ。
- 営農支援（営農の継続）
 - ・ 集落に入っていくと、来春の作付が可能か復旧の見込みを求められると思われる。スケジュール感を示す必要。

(三条地域)復旧復興通信(2号)

平成 23 年 10 月 31 日
三条農業振興部

査定期程の調整状況

➤ **査定期間延長の要望**

- ・ 県市担当分の査定設計書作成作業について、予定の 17 次査定(～11/18)までに概ね終える見込みです。
- ・ コンサル担当分について、本庁や技術協会に応援を依頼してきたところですが、現日程の間に作成作業を終了する見込みが立っていません。
- ・ このため、できる限りの応援を依頼するとともに、査定期間の延長を念頭に日程調整をお願いしているところです。
- ・ 現在、18～20 次査定(11/28～12/16)を考えています。
- ・ コンサル担当分について、設計書を早く仕上げるため県で積算を行う予定です。
- ・ これまで支援してきた振興部に加え、本庁や他局への作業依頼を行っているところです。積算支援について、よろしくお願いします。

査定設計書作成支援状況

➤ **県外からの支援**

- ・ 10 月 25 日から北海道の土地改良連合会 4 名の支援チームが入っています。11 月から、もう 2 名駆けつけてくれる予定です。
- ・ 10 月 31 日から、山形県の技術協会から支援チームが 5 班(3 名×5)入ります。

➤ **地域外からのコンサル支援**

- ・ 技術協会新保会長の要請で、6 つのコンサルが入ってくれます。
- ・ 大原技術、ナルサワ、相互技術、小林測量、新栄技術、信越測量です。

➤ **査定設計書数の見込み**

- ・ 県、市担当分(約 423 箇所)
- ・ コンサル担当分(約 230 箇所)
- ・ 計 653 箇所となる見込みです(かなり動く可能性はあります)。

打合せ会議等

- ✓ 三条市農地災害支援会議(支援 4 振興部、三条市、小林設計)を 10 月 28 日に開催しました。
 - ・ 支援状況の情報交換、課題検討(写真の撮り方等)を行いました。

被災から 3 か月が経ち、疲れもたまってきています。
声を掛け合っていきましょう。

平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨災害

(三条地域)復旧復興通信(3号)

平成 23 年 11 月 11 日
三条農業振興部

昨日、三条市農地災害支援会議を開催しました。今回は、三条市、技術協会（小林設計）、振興部（新潟、新津、巻、三条）に加え、支援を依頼した新発田、長岡の両振興部からも参加してもらいました。

査定の進捗状況（三条振興部から）

- ・ 三条市分について、査定件数は全体で約 700 件の見込み。
（被災箇所数でなく査定設計書件数であり、確定していません。）
- ・ このうち、16 次査定（～11 / 11）までに 406 件終了（58%）。
- ・ 残りのうち、282 件がコンサル案件。17～20 次査定で完了予定。
- ・ コンサル 8 社、北海道土地改良連合（11 月 25 日まで）、山形県測量設計協会（山形で内業中）が測量設計している。
- ・ 積算～査定設計書作成について、県で支援することとしています。

作業状況（技術協会から）

- ・ 今月いっぱい、数量調書まで作成終了する。
- ・ できるだけ早くあげるため、北海道士連、山形県協会に応援を依頼。
- ・ 三条市建設業協会から写真班、4 班が応援に入っている。
- ・ 取りこぼしがないように進めている。現地確認は昨日までに終了。
- ・ 写真の 4 班は、山形県協会分を対応中。今後の写真班への依頼は調整中。

工事発注の状況（三条市から）

- ・ 小災害について、10 / 24 農区長に担当業者を決定した旨、案内。
- ・ 補助は、11 / 24 に 13 件発注予定。少しずつ発注件数を増やしていく（査定箇所を何件かまとめて発注）。
- ・ 工事箇所（補助、小災害）の位置図を農区長に配布予定。
- ・ もれがないようにする。

課題、その他

- ・ 河川のトンパックがおいてある箇所や拡幅が予定されている箇所など、どうするのか（復旧見込み）を集落の方から聞かれる。河川との調整を早くして、作付けの見込みを答えることが必要（五十嵐川、鹿熊川ほか）。
- 三条市が集落説明にいった際にも、河川のことを聞かれることがある。農業振興部からも地域整備部に働きかけるので、情報をいただきたい。
- ・ 今後の県の査定支援態勢について、振興部間でスムーズにいくよう調整。

平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨災害

(三条地域)復旧復興通信(4号)

平成 23 年 12 月 21 日
三条農業振興部

先週、12月16日で10月3日から始まった災害査定が終わりました。11次から12次まで途中一週間の休みを挟んで計10週、14班が入りました。

この間の皆さんのご努力とご支援に改めて御礼申し上げます。今回の情報は、査定結果の集計と復旧復興に向けた現状、そして今後の対応等についてお知らせします。

支援いただいた皆様への限定的な情報発信は、今回を持って最後とします。今後は、適宜送付範囲を広げた情報提供を行っていきます。

ありがとうございました。

査定結果の速報（未確定値）

- ・ 三条農業振興部（農村振興）関係分の査定結果です。事業費決定前の速報値であり、変わる場合があります。
- ・ 農地・農業用施設復旧の申請件数 675 件、26 億 9,000 万円に対し、査定件数 674 件、25 億 5,400 万円（査定率 95%）。
- ・ 農地、農業用施設、集落排水施設ごとの内訳は表のとおりです。

災害復旧対応（三条市の動き）

- ・ 復旧要望農地被害 3,776 箇所・442ha、農業用施設被害 2,819 箇所、計 6,595 箇所。工事発注件数 933 箇所、工事完了件数 474 箇所（12月18日現在）。
（いくつかをとりまとめて発注することから、最終的な工事発注件数と要望件数とは異なってくる）
- ・ 12月12日夜「豪雨災害復旧に係る農区長・転作推進員会議」を開催。下田土地改良区、にいがた南蒲農協、三条地域振興局地域整備部・農業振興部も出席。
- ・ 12月21・22・26日夜、復旧に係る説明会を開催（道路や農地の復旧の全体行程について説明をした後、個別箇所の復旧について相談会を開催）

来春の作付けに向けて

- ・ 上記 12/12 の農区長・転作推進員会議で提示された、来春作付けが危ぶまれる地域がある 19 集落について、作付けが危ぶまれる面積を縮小できないか検討します。
- ・ 特に用水が手当てされれば作付け可能な箇所の用水対策について、現地踏査のうえ具体的な対応（仮設ポンプ、仮配管等）を検討し、三条市、本庁と協議、集落と打合せをしていきます。
- ・ 土地改良区や査定作業で現地に詳しい振興部から意見を聞くなどして、実情に応じた対策を検討します。よろしくお願ひします。

(参考資料)

【査定結果集計】 (未確定値)

三条農業振興部管内計 (百万円)

区 分	被 害		申 請		査 定		
	箇所数	被害額	箇所数	申請額	箇所数	査定額	面 積
農 地	1,638	6,062	282	1,349	282	1,291	157.4ha
農業用施設	1,603	5,639	393	1,341	392	1,262	—
合 計	3,241	11,701	675	2,690	674	2,554	—
集排施設	3	130	3	115	3	84	—

市町別 (農地・農業用施設の計) (百万円)

区 分	被 害		申 請		査 定		
	箇所数	被害額	箇所数	申請額	箇所数	査定額	面 積
三 条 市	3,184	11,290	667	2,573	666	2,437	150.4ha
加 茂 市	27	144	4	40	4	40	7.0
田 上 町	6	49	2	18	2	17	—
旧中之島町	23	210	1	47	1	47	—
見 附 市	1	8	1	12	1	12	—
合 計	3,241	11,701	675	2,690	674	2,554	157.4ha

(端数処理のため合計があわない場合があります)

【来春作付が危ぶまれる地域がある集落】

(長沢地区) 籠場 花刈 上組 中組

(森町地区) 遅場 早水 牛野尾 南五百川 名下 塩野刈
森町 田屋 小長沢 北五百川

(鹿峠地区) 江口 曲谷 牛ヶ首 落合 鹿熊

(三条地域)農地・農業用施設の復旧通信

平成 24 年 2 月 22 日 三条農業振興部

7月の豪雨災害から7か月が経とうとしています。被災地では平成18年以來の豪雪に見舞われ、被災した農地や施設は2mを超える深い雪の下に埋もれ見えなくなっています。雪はやさしく包み込んでいるようですが、復旧の足を遅くし、農作業に取りかかれる日を先延ばしにします。

また、雨に洗われた斜面は豪雪の融雪災害を受けやすいことも考えられます。春の作付けに向け、準備と配慮が必要です。よろしくお願ひします。

最近の被災地の状況や復旧復興の取組をお知らせします。

地域の動き（1月～）**・ 補助率増高**

農地・農業用施設災害復旧事業及び農業用施設関連事業の基本となる補助率は農地50%、農業用施設65%、施設関連50%ですが、これらの事業費の総額を関係耕作者の実数で除した額がある基準を超えると、基本の補助率より高率の補助率を受けることができます。これを補助率の増高といいます。

1月12, 13日に長岡振興局で農政局のヒアリングが行われました。国で集計され、補助率が決まることとなります。

・ 実施設計書の作成、発注

三条市復旧対策本部員会議資料によれば、1月29日現在の農地・農業用施設の復旧状況は下表のとおりです。

項目	復旧要望件数	工事発注件数	工事完了件数
農道・用排水路	2,832	2,036	200
農地	3,838	2,653	282

※復旧要望件数の内、いくつかをとりまとめて発注することから、最終的な工事発注件数と要望件数とは異なってくる。

・ 牛野尾谷の仮設ポンプ

下田地区の遅場、早水、牛野尾集落の水田は、守門川の取水堰からそれぞれ遅場用水路、早水用水路、牛野尾用水路を通して用水を引いていますが、延長が数kmと長大であること、またマブ（隧道）をはじめ施設被害が大きく、作付けまでの復旧が困難な状況でした。

そこで守門川から直接川水を汲み上げ、田んぼに掛ける仮設ポンプの設置を計画。計画変更手続きを行い対応することとしました。

これにより今春作付けできる田が増え、営農の継続が可能となります。

・ 下田地区営農対策会議

被災直後の7月31日から、三条市、JA、NOSA I、土地改良区とともに会議を持ち営農対策等を検討してきました。

1月13日の第6回営農対策会議では、

- ① 24年産米の生産数量目標配分と営農対策
- ② 農地復旧工事の進捗状況と計画
- ③ 作付けに向けた水稻の育苗計画・そばの種子確保等
- ④ 濁沢集落の営農アンケート結果
- ⑤ 復旧水田における水稻技術対策等

を議題として、検討を行いました。

次回は、2月24日に開催予定です。

・ 南蒲原土地改良協議会施策提案

2月8日、南蒲原土地改良協議会は北陸農政局及び県に平成24年度農業農村整備事業に関する施策提案を行いました。この中で被災直後の現地調査から災害査定に至る迅速な対応に対するお礼、今後の復旧復興支援へのお願いがなされました。（提案書に添付された写真を参考に掲載します）

・ 被災地の様子(写真)

雪の下ですが、被災地の現況写真を載せました。

また、五十嵐川の院内サイフォンの工事現場の様子も併せて載せました。このサイフォンは413haの受益を抱えていますが、豪雨による洪水で川底がえぐられ、流石等により用水管が破損しました。川水の少ない冬期間に工事を行うため、三条市では早期に発注し復旧工事を進めてきました。2月末までに管の敷設を終える予定です。

「下田地域」豪雨災害被災地の現況(平成24年2月14日)



濁沢集落への分岐地点 (牛野尾)



民主党岡田幹事長(当時)視察箇所(牛野尾)



五十嵐川脇土砂流入箇所 (森町)



鹿熊川中流域 (新屋)



鹿熊川下流域 (曲谷)



鹿熊川最上流にある集落 (鹿熊)

豪雨災害被災「笹岡用水路(五十嵐川伏越し)」工事現場

三条市院内
H24.2.14



(全景)



(右岸側埋設後)



(埋設管FRPΦ 1100mm × 4m)



(仮設コレゲート)

(施策提案添付写真から)

牛野尾谷地区：農地土砂流入(下田地域)



北五百地川区:農地土砂流入(下田地域)



吉津川地区 水稲湛水状況
(加茂市・三条市境周辺)



牛野尾谷地区:山腹用水路の崩壊



土砂堆積した用水路 牛野尾



水没した機場 西野揚水機場
(長岡市・中之島地域)



浸水した機場 西野揚水機場



4.

災害対応時の装備

初期対応

1019 災害対応時の装備

災害対応時には最小限必要なものを確実に装備して現地に向かう必要があります。通常の調査とは異なる装備も必要となりますので、出発前に確認します

1. 基礎的な装備

災害対応時の現場用装備として、以下のものを確保します(表)。

- ① 施設位置情報、②現場確認用具、③通信用機器、④安全用具、⑤飲料水・食料、その他

2. 装備の確認

装備の確認は複数人で行います。これによって、忘れ物などの不備が発生するのを回避することができます。

装備の種類	内 容
施設位置の情報	①地図・空中写真、②GPS(器機、位置情報、調査経路の記録)
現場確認 記録用の用具・資材	①デジタルカメラ(GPS付きが望ましい)、②デジタルビデオカメラ(あれば携帯：GPS付きが望ましい)、③ポール、④スタッフ、⑤巻き尺(50m)、コンベックス、⑥黒板・チョーク、⑦危険箇所の表示用看板・リボンテープ
補助用具	①ナタ、②ノコギリ、③スコップ(剣・角、各1本)、④木槌、ハンマー
通信用機器	①携帯電話、②トランシーバ、③携帯ラジオ
安全用具	①ヘルメット、②長靴、③雨具、④救急箱(消毒薬、虫除けスプレー、胃薬、風邪薬等)
飲料水・食料	①飲料水(特に夏場は不可欠)、②食料(ビスケット等の簡易食、初期対応で初めに現地入する場合に必要)
その他	①リュックサック(2個/班)、②ポリタンク(清浄水確保のため)、③ビニール袋(大小複数のものを数枚ずつ)、④携帯FMラジオ

3. 目的に応じた装備

ダム・農業用溜め池の点検調査においては、基準・指針等に規定された応急処置等が必要な場合があります。これらに必要な装備については、基準・指針を参考として準備します。



(出典) 「農業農村・震災対応ガイドブック2009」